

異常気象にも弱い再生可能エネルギー

我が国の民進党は、脱原発政策を掲げて将来の電力供給を再生可能エネルギーに託しています。お隣の韓国では新たな政権の文在寅（ムン・ジェイン）大統領が「脱原発に進んでいく」との政策を宣言しました。おそらく再生可能エネルギーに期待しているのでしょう。**両方に共通している問題点は、具体的な実現の方法を提示できないことです。**ましてや国連に提出した温暖化ガス削減の国際公約（約束草案）をどのように実現するかなどは頭の片隅にもないことでしょう。炭酸ガスを出さない原子力発電を止めたら、その代わりに務められるのは火力発電しかないからです。

我が国でも韓国でも再生可能エネルギーの主力は太陽光と風力ということになります。その実力がいかほどのものを民進党や韓国の新政権は心得ていません。需要に合わせて発電することができない太陽光・風力は、いくら設備があってもそのままでは役に立ちません。**過不足の調整を行う火力や原子力などのバックアップがあって初めて成り立つのです。その意味では「やどかり」が宿となる貝殻があって初めて生き残ることができるのと同じです。**バックアップを失ったら太陽光・風力は生き残れないのです。この点に関しては別の機会に譲ります。

ここで特に伝えたいことは、地球温暖化が進んだ時の太陽光・風力設備の弱さです。地球温暖化は異常気象を増やします。異常気象には色々ありますが、特に我が国に影響が大きいのは**集中豪雨や巨大台風の発生頻度が増す**ことでしょう。記憶に新しいのは2015年の集中豪雨で発生した鬼怒川の氾濫でしょう。茨城県常

総市で建設された大規模な太陽光発電所は一気に流されてしまいました。実はこの洪水の原因になったのは土手の一部を掘削して建てられた太陽光発電所とも言われています。台風の襲来によって太陽光パネルが飛ばされた例は全国に沢山あります。原子力発電所や火力発電所のように頑丈には作られていませんので、嵐には大変弱いのです。実際、2015年には、石垣島の太陽光パネルが致命的な損傷を受けました（下記写真）。



2015年、台風15号石垣島の太陽光パネルの損傷状況（石垣島、風速71m）

風力発電はどうでしょうか？ 有名なのは2003年9月に襲った台風14号によって沖縄県宮古島に建設されていた風車6基のうち3基が完全に倒壊し、残りの3基も大きな損傷を受けたことです。これに懲りた沖縄電力では多良間島などで可倒式の風車を建てています。これは、台風が来る前に地面に風車を倒しておき、通り過ぎてから再び起立させる仕組みです。し

かしこれも 245 キロワットという普通の風車の 1/10～1/20 の規模ですからできることも言えるでしょう。また、京都府にある太鼓山風力発電所は強風により倒壊しました（下記写真）。



産経新聞 5月9日(木)配信
= 3月14日の強風で落下した京都府の太鼓山風力発電所の風車 = (写真：産経新聞)

このように自然エネルギーは良いことばかりではありません。太陽や風は実は大変気象条件に影響を受けやすいエネルギー源です。日照時間や風の有無による影響のみならず、異常気象に脆弱な発電設備であるという弱点も有しているのです。膨大なコストをかければ台風に耐えるものを作ることにはできるかもしれませんが、基幹電源になれないという欠点もあります。そのことを忘れて、将来を再生可能エネルギーに託すということはとても無責任なことなのです。私たちの子供や孫、さらにそれに続く世代のために、そして地球温暖化を防ぐために原子力発電が必要な理由です。

福島事故による農産物の放射能情報 (正確な情報を活用してください)

(1) お米は汚染されていません

毎年全量検査を行って確認していますが、2015年以降、放射能は検出されていません。



(2) 福島原発沖の魚も現在ではほとんど放射能不検出

平成27年4月以降は基準値（100ベクレル／キログラム）を超える検体は0%になっています。



(早野龍五氏：エネルギー問題に発言する会での講演資料から)